

## 平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立雀宮中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、平成31(2019)年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

平成31(2019)年4月18日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年(国語、算数、理科、質問紙)

中学校 第2学年 (国語、社会、数学、理科、英語、質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年	国語 181人	社会 181人	数学 181人
	理科 181人	英語 181人	

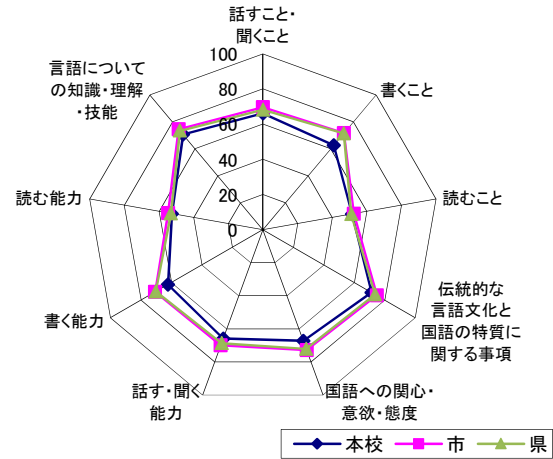
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	話すこと・聞くこと	66.2	69.6	68.2
	書くこと	62.7	71.7	71.5
	読むこと	51.5	52.6	51.0
	伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	71.3	74.8	73.7
観点	国語への関心・意欲・態度	67.2	72.8	72.1
	話す・聞く能力	65.9	69.9	68.7
	書く能力	62.3	70.7	70.3
	読む能力	52.6	54.7	53.1
	言語についての知識・理解・技能	70.7	74.5	73.5



★指導の工夫と改善

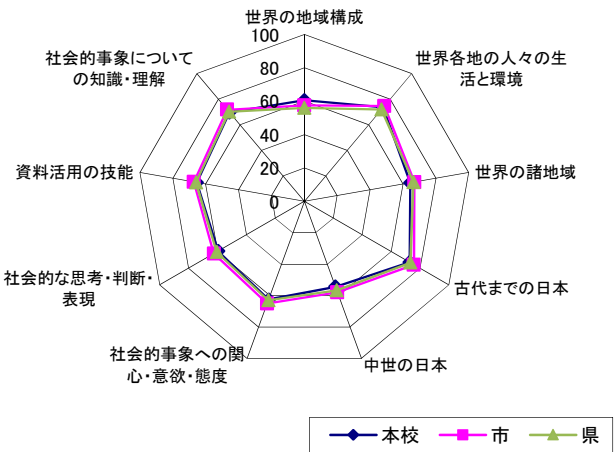
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
話すこと・聞くこと	平均正答率が市平均より3.4ポイント、県平均より2.0ポイント下回っている。 ○話の内容を正確に聞き取ることができている。 ●聞き手に理解してもらうための話し方の工夫を聞き取ることが難しい生徒が多い。	・聞き取り問題は、各学年で年間6回程度実施している。問題の解説の際に、再度CDを聴かせ、聞き取るポイントについてより理解が深まるよう指導する。
書くこと	平均正答率が市平均より9ポイント、県平均より8.8ポイント下回っている。 ○読み取った内容を明確に書くことができている。 ●作文能力に課題が見られる。書き方の指示に従うことや、分かりやすい文章にするための工夫をしながら書くことを苦手とする。	・授業において、感想文や意見文等、自分の考えを作文用紙を使って書く活動を多く取り入れる。その際、基本的な作文の書き方を確認し、自己評価できるようポイントを絞って指導したい。
読むこと	平均正答率が市平均より1.1ポイント下回っているが、県平均とほぼ同じである。 ○場面の展開を捉えることができている。文学作品の内容の理解はある程度できている。 ●文章の展開や構成(説明文)、登場人物の心情理解、登場人物の描写を比較して特徴を捉えることなどに課題が見られる。	・教科書以外の文章にも触れさせる機会を設け、取り組ませていくことで、文章の細かな理解力(構成、登場人物の心情等)を育てる。
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	平均正答率が市より1.5ポイント下回り、県より2.4ポイント下回っている。 ○歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直せたり、故事成語について理解していたりするなど、基本的知識・事項を捉えられていた。 ●小学校で学習した漢字を覚えていない生徒が多い。	・漢字や文法の知識を確実に定着できるよう小テストを実施する。また、間違った学習事項は家庭学習で再度復習するよう指導するとともに、家庭学習実施の有無及び定着度の再確認をし、基礎学力の伸長を図りたい。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【社会】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	世界の地域構成	60.6	57.6	56.0
	世界各地の人々の生活と環境	73.6	74.6	71.9
	世界の諸地域	64.4	67.0	66.3
	古代までの日本	72.8	75.7	73.3
	中世の日本	54.3	57.9	56.7
観点	社会的事象への関心・意欲・態度	62.5	65.0	63.0
	社会的な思考・判断・表現	59.5	62.5	60.5
	資料活用・技能	65.5	67.2	65.9
	社会的事象についての知識・理解	69.7	71.8	70.1



★指導の工夫と改善

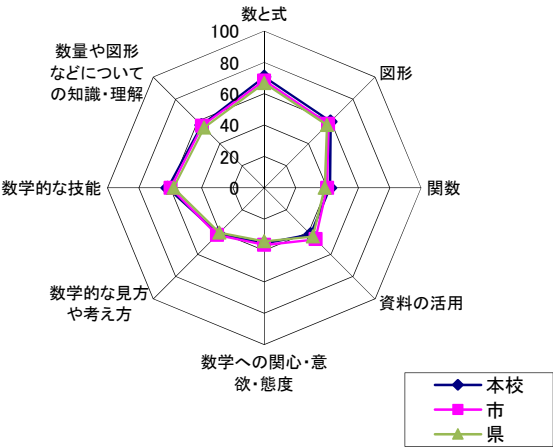
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
世界の地域構成	平均正答率は市の平均を3.0ポイント、県の平均を4.6ポイント上回っている。 ○地図中の緯度と経度を読み取ったり、地域区分を理解したりすることができている。 ●世界地図について、その特色を把握することができていない生徒が多い。	・授業等で、さまざまな世界地図の目的や長所と短所、使用法について整理して理解を深め、さらに定着するよう指導していく。
世界各地の人々の生活と環境	平均正答率は市の平均を1.0ポイント下回っているが、県の平均は1.7ポイント上回っている。 ○世界各地の生活の様子について、自然環境と関連づけて把握することはおおむねできている。 ●雨温図をもとに、世界各地の気候帯について判断する力に課題がある。	・世界各地の気候の特色を、雨温図をもとに把握させるようにしていく。「世界の諸地域」の各单元でも、雨温図からわかる気候の特色について授業の中で意図的に取り上げることで、理解を深めさせる。
世界の諸地域	平均正答率は市の平均を2.6ポイント、県の平均を1.9ポイント下回っている。 ○世界各州の地形については、よく理解できている。 ●西アジアや中央アジアの産業については、その特色を把握することができていない。	・世界の諸地域の産業の特色を、地域ごとにまとめ把握させるようにする。「世界の諸地域」を履修したあと、振り返りの学習の中で、地域ごとの産業の特色をまとめさせ知識の定着を図る。
古代までの日本	平均正答率は市の平均を2.9ポイント、県の平均を0.5ポイント下回っている。 ○藤原氏の摂関政治についての正答率は、県の平均を4.0ポイント上回っている。 ●聖徳太子の政治について、隋への派遣を理解している生徒は72.4ポイントと高いが、県の平均を2.7ポイント下回っている。	・古代の日本の特色を、東アジア諸国との関係の中でとらえさせるようにする。「古代までの日本」の履修後、まとめの学習の中で「東アジア諸国と日本とのかかわり」など、さまざまな視点で振り返りを行い、「古代」の特色をまとめさせる。
中世の日本	平均正答率は市の平均を3.6ポイント、県の平均を2.4ポイント下回っている。 ○室町時代の時代区分や東アジア諸国との交流については、県の平均と同じ、あるいは上回っている。 ●中世の諸産業の発達についての理解は県の平均を10ポイント下回り、不十分といえる。	・各時代の諸産業や人々の生活の様子について、政治などの社会情勢とのかかわりを重視し、特色や変化を理解させる。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	70.8	68.4	66.8
	図形	59.8	57.8	56.5
	関数	41.9	40.1	38.5
	資料の活用	41.9	46.3	43.8
観点	数学への関心・意欲・態度	35.4	36.4	34.1
	数学的な見方や考え方	41.4	42.5	40.5
	数学的な技能	61.6	59.6	57.9
	数量や図形などについての知識・理解	56.6	56.0	54.3



★指導の工夫と改善

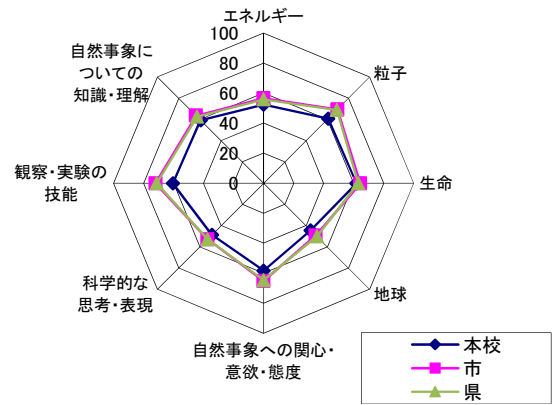
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	平均正答率は市の平均を2.4ポイント、県の平均を4.0ポイント上回っている。 ○文字の式の計算で、同類項をまとめることはよく理解している。 ●分数の乗法や四則の混じった計算で、苦手を感じている生徒がいる。	・授業中や家庭学習での計算練習に、分数を含む問題を意識的に取り入れ、反復練習することで、分数の苦手意識を克服できるように指導していく。
図形	平均正答率は市の平均を2.0ポイント、県の平均を3.3ポイント上回っている。 ○投影図や柱体、錐体の体積の関係はよく理解している。 ●作図をする問題に課題が見られる。	・作図については、1学年でのみ学習する内容である。図形分野の授業を行う時に、自分で図を作成するなど、適宜、作図の作業を取り入れることで、定着が図れるように指導していく。
関数	平均正答率は市の平均を1.8ポイント、県の平均を3.4ポイント上回っている。 ○反比例のグラフと式の関係について、よく理解している。 ●与えられた式から問題を解決する方法を、数学的に説明する問題に課題が見られる。	・問題を解決する過程を、数学の言葉を使って書いてみたり、相手に説明する時間を、授業中に適宜設けることで、数学的に説明をする機会を増やし、苦手意識を克服できるように指導していく。
資料の活用	平均正答率は市の平均を4.4ポイント、県の平均を1.9ポイント下回っている。 ○度数分布表から相対度数を求めることは、よく理解している。 ●資料を判断するのに、根拠となる代表値について判断する問題に課題が見られる。	・様々な問題に取り組むことで、平均値や最頻値などの用語の意味だけではなく、その使い方についての理解を深める。また、根拠を明らかにして説明する活動を、授業内で意図的に取り入れて指導していく。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	52.3	56.6	55.8
	粒子	60.9	69.6	69.0
	生命	61.9	64.4	63.0
	地球	44.4	49.2	50.2
観点	自然事象への関心・意欲・態度	58.3	65.2	64.7
	科学的な思考・表現	48.7	52.8	52.8
	観察・実験の技能	60.5	72.0	71.2
	自然事象についての知識・理解	59.3	63.7	62.7



★指導の工夫と改善

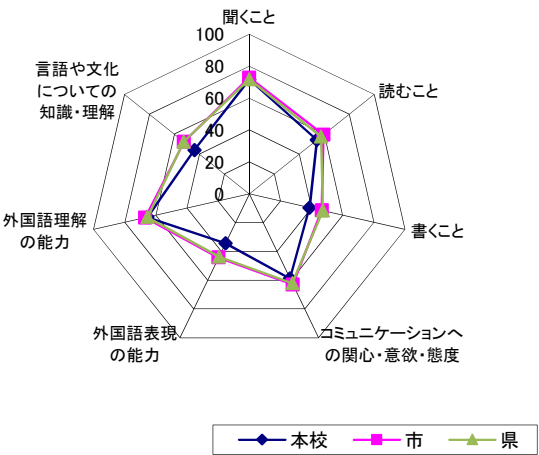
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	平均正答率は、市の平均を4.3ポイント下回っている。 ○面積の大きさと圧力の大きさの関係をよく理解している。 ●おもりがばねを引く力を矢印で表す問題では誤答をする生徒が多く、考えを正しく表現する力に課題が見られる。	・見えない力を科学的にとらえる能力を育てる。 ・比例の法則を量的に表現が出来るよう重点的に助言する。 ・身の回りに活用されているエネルギーについて、日常的に話題に出し、科学の進歩を感じ、考えられるよう指導していく。
粒子	平均正答率は、市の平均を8.7ポイント下回っている。 ○質量パーセント濃度を答える問題では正答率が県の平均値とほぼ同じである。 ●気体のエタノールの粒子モデルを考える力が低い。	・粒子の質量や数を視覚的に捉えて考えることができるよう、モデルなどを利用して助言する。 ・すべての物質は粒子からできていることを認識させ、その組み合わせから多種多様な物質へとつながっていくことを指導していく。
生命	平均正答率は、市の平均を2.5ポイント下回っている。 ○イチゴを分類する問題では、正答の割合が県の平均より高い。分類する思考力は高い。 ●ルーペを使用する問いに誤答が見られる。	・授業で器具を扱う際には、正しく使用し、適切な観察ができるように助言する。 ・長い地球の歴史から命は生まれ、それらが進化し、現在の生物につながっていることを意識させ、統計的に区分をすることで、種の特徴を考えられる指導を行う。また、顕微鏡などを利用し、観察する意義を指導する。
地球	平均正答率は、市の平均を4.8ポイント下回っている。 ○岩石の特徴から、岩石がつくられた火山の形について推測する問題では、県の正答率とほぼ同じである。 ●化石から、地層が堆積した当時の環境や時代を推測する問題に誤答が多い。	・時間の系列や広がりをもった事象を考察する能力を育てるため、授業において話し合い活動を多く取り入れ、思考力を育てる。 ・日本は自然災害が多い地域である。地質を調べることで見えてくる事象を考える指導をする。

宇都宮市立雀宮中学校 第2学年【英語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	71.7	72.8	71.8
	読むこと	54.2	59.4	57.5
	書くこと	38.7	46.6	47.3
観点	コミュニケーションへの関心・意欲・態度	58.9	63.0	62.2
	外国語表現の能力	34.3	44.2	43.6
	外国語理解の能力	65.4	66.8	65.4
	言語や文化についての知識・理解	43.9	52.3	52.5



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	平均正答率は県平均とほぼ同じ、市平均を1.1ポイント下回っている。 ○対話の内容を聞き取り、適切に応答する問題はよくできており、平均正答率も8割近い。	・生徒たちにより多くの英語を聞く機会を与えるため、クラスルームイングリッシュを多用したり、英語学習の進度に合わせて語彙や話すスピードを調整しながらスモールトークを継続的に行っていく。 ・ALTとのチームティーチング時には、教師同士の対話の概要を聞き取らせ、まとまりのある英文を聞き取る能力を高めていきたい。
読むこと	平均正答率は県平均を3.3ポイント、市平均を5.2ポイント下回っている。 ●読み取った内容をふまえて、英文を完成させる問題については、市の平均正答率を10.0ポイント、県の平均正答率を7.5ポイント下回っている。	・まとまりのある英文を読み取るための準備段階として、単語及び基本文テストを、授業の帯活動として継続して行う。 ・英文を読む際に、代名詞が誰や何を指すのかを、一つ一つ確認しながら読み解く指導を行っていく。 ・教科書の題材を増補する内容の英文を、語数の少ないものから徐々に語数の多いものへと移行させながら英文読解に挑戦させ、文の大意を把握したり要点をつかんだりする力を身に付けるよう指導していく。
書くこと	平均正答率は県平均を8.6ポイント、市平均を7.9ポイント下回っている。 ●英文を正しい語順で書く問題については、市の平均正答率を4.8ポイント、県の平均正答率を16.9ポイント下回っている。 ●対話の流れに合った英文を書く問題については、市の平均正答率を7.6ポイント、県の平均正答率を5.4ポイント下回っている。	・文法事項に留意しながら、与えられた単語での並べ替え問題に多く取り組ませ、語順を意識して英作文ができるよう指導していく。 ・授業の後半や単元末にトピックを与えて、自由作文を繰り返し行い、表現力の向上を目指す。 ・生徒の英作文やスピーチなどをALTに添削してもらい、適切な英文が書けるように指導を行っていく。



## 宇都宮市立雀宮中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○【家庭での学習】について、「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」と肯定的回答をした生徒は、77.9%で市より9.2ポイント、県より10.2ポイント高い。また、「家で、学校の授業の復習をしている」と回答した生徒は、市より11.7ポイント、県より10.2ポイント高い。このことから本校で行っている、家庭学習ノートの取組が定着し、しっかりと習慣化されてきた効果が伺える。今後も学習指導主任を中心に家庭学習ノートの取組を継続していきたい。そして「家でテストで間違えた問題について勉強をしている」についても、市より4.3ポイント県より8.0ポイント高いことは、各教科でテスト後に解き直しの取組を行っていることが定着してきたと考えられる。同様に指導を継続していきたい。

●【家庭での学習】について、「家で学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」では、市より5ポイント程度低くなる。また、土日の学習時間も少ないことから、主体的、探究的な学びについて今後、学習指導の課題として取り組んでいきたい。

○【学校での様子】について、「学習に関して自分から進んで取り組んでいる」は、市より5.7ポイント、県より9.6ポイント高く、「授業の中で、目標(めあて・ねらい)が示されている」は市より9.3ポイント、「授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている」は市より13.0ポイント、県より11.0ポイント高い。また「授業を集中して受けている」は市より7.6ポイント、県より12.3ポイント高く、学力向上の授業改善として行ってきた目標の提示と振り返りの取組の効果や授業に意欲的に取り組んでいる様子が伺える。「学校のきまりを守っている」の肯定的回答は97.2%で規範意識も高い。「先生は学習のことについてほめてくれる」も市より1.8ポイント、県より8.5ポイント高く、指導者と生徒の関係が良好であることも伺える。今後も生徒ができたことや良い面を認め、分かる授業を目指していきたい。

●【学校での様子】について、話し合い活動において「クラスは発言し易い雰囲気である」と感じているにも関わらず、自分の考えをまとめて書いたり、発表したりすることへの肯定的回答が低く、苦手意識が伺える。今後は学級活動や授業において自分の考えを書く活動や話し合い、学び合い活動を意図的に取り入れ、改善を図っていきたい。

○【自分自身のこと】については、全体的に肯定的回答が高い。「自分にはよいところがあると思う」75.1%、「難しいことでも、失敗を恐れずに挑戦している」72.1%、「人と話すことは楽しい」95%、「誰に対しても、思いやりの心をもって接している」については市よりも7.8ポイント、県よりも9.4ポイント高い。特に「自分の良さを人のために生かしたいと思う」については、肯定的回答が93.9%で市より6.4ポイント、県より7.9ポイント高い。日タリーダーを中心に良い学年にしようと学校生活を送っていることで集団の中での自己有用感が培われつつあることが伺える。また、本校が地域において行っている様々なボランティア活動を通して、他者との繋がり、社会との繋がりがから自己有用感が育っているものと思われる。今後も更に生徒のそれぞれの個性、良い面を生かした教育を心がけたい。

●

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
振り返り活動と連携させた家庭学習ノート学習	○毎日1ページ以上自主学習をする「家庭学習ノート」に取り組ませている。帰りの会でその日の授業の振り返りを行い、帰宅後の家庭学習として、教科及び復習内容を自己決定させ、ノートに記載させてから下校させるという取り組みを全職員で共通理解をして実施している。 ○各教科部会で、1週間の復習としての土日の家庭学習の方法等を共通理解し、家庭学習として取り組ませる。	○「家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている」に対する肯定的回答割合は市よりも5.6ポイント下回っている。  ○家庭学習時間が2時間以下と回答している生徒の割合は、平日は64.7ポイントで市や県と同等であるが、休日は58.1ポイントで県や市を上回る。

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
○「疑問や不思議に思うことはわかるまで調べたい。」「難しい問題にであうと、よりやる気がでる。」「勉強していて、おもしろい、楽しいと思うことがある。」「に対する肯定回答割合は県や市を下回っている。  ○不明な漢字や国名・地名等を自ら辞書や地図・インターネットで調べることに對しての「はい」の回答率が県や市よりも低い。	学習への興味関心度や学習継続力を高める授業の工夫	○生徒が課題解決の達成感を得られる工夫をし、学ぶ意欲の向上につなげていく指導を研究する。  ○教科部会において、ペアやグループなどの学習形態を工夫しながらの学びあい活動を取り入れた授業、基礎・基本事項の十分な理解をベースとしながらも、生徒の興味・関心及び学習継続力を高める授業の工夫を話し合い、共有する。